

重症下肢虚血の難治性潰瘍に対してのレオカーナ 2 クール使用経験とその後の経過

【目的】当院で維持透析中の重症下肢虚血（CLI）患者に対して、レオカーナを用いた吸着型血液浄化療法を 2 クール経験した。その後の経過を含め報告する。

【方法】週 2 回非透析日に 2 時間、12 週間（1 クール）のスケジュールでレオカーナによる吸着型血液浄化療法を施行した。1 クール終了時レオカーナによる潰瘍の改善が認められたが、まだ潰瘍が完治していなかったため 2 クール目を開始した。治療期間中、創部の確認、治療前後と治療後 2 ヶ月の SPP 測定し効果を検討した。

【結果】2 クールの治療を行ない、治療前後での SPP 測定結果に顕著な上昇は見られなかったが 2 ヶ月後の SPP では上昇が見られた。所見として潰瘍の治癒も認められた。

【まとめ】重症下肢虚血の難治性潰瘍に対して、レオカーナによる吸着型血液浄化療法を 2 クール施行することでより効果を確認できた。今後も下肢潰瘍に対する治療法の一つとして効果が期待できると考えられる。